

第6学年1組 家庭科学習指導案

平成30年2月8日（木）公開授業Ⅰ

平成30年2月9日（金）公開授業Ⅱ

会場 2階-⑤（N 6年家庭）

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 尾形美穂

1 単元名 家族のためにできること ー健康寿命と家庭生活ー

2 本単元の価値

これからの家庭科教育では、家庭生活と社会とのつながりを重視し、家族の一員として、学習を通して持続可能な社会を構築するための力を育成することが求められている。近年、我が国日本では、高齢化が進み深刻な社会問題となっている。子どもたちの祖父母である「団塊の世代」（昭和22（1947）～24（1949）年に生まれた人）が65歳以上となった2015年には3,395万人となり、その後も増加。2042年に3,878万人でピークを迎え、減少に転じるが高齢化率は、なお上昇する見込みである。2060年には2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上というデータも報告されている。高齢化社会によって、年金・医療・福祉など財政面などで様々な問題が生じる。このような社会を生きていくためには、個人の生活での努力が必要であり、家庭科で学ぶべき価値のある内容である。

本単元で扱う食事や生活の仕方は、必要不可欠な日常の健康・快適・安全な生活の営みであり、現代社会で希薄になりつつある家族との団らんの時間についての学習である。しかし、子どもは、その営みが健康に影響を及ぼしていることは理解していても、将来の健康維持や高齢化社会における問題点や福祉とつながっていることまでは、意識できていない。そこで私は、家庭科を中心として福祉教育と体育科保健等、学習内容を関連付けた他教科横断の視点で、単元を開発した。教科等横断的に単元を構成することで、家庭科単独よりも効果的に高齢化社会を自分事としてとらえさせ、食事や生活の仕方の改善策を考えさせることができる。自分の祖父母や家族が、元気に働いたり、活動できたりするためにできることを考え、実践しようとする姿を目指す学習は、未来のことも考え、持続可能な社会を構築する一員を育むことになる。

3 目指す姿

生活の仕方と健康を維持することとをつなげて、改善策を考え、実践しようとする子ども
具体的には、**健康寿命に配慮し、持続可能な社会を構築することに着目し、生活の仕方を考える**という「見方・考え方」を働かせ、知識・技能や生活の問題点について多角的にとらえ、改善策を構想する力等の資質・能力を発揮しながら、改善策を考え、実践しようとする姿。

4 働かせる「見方・考え方」

健康寿命に配慮し、持続可能な社会を構築することに着目し、生活の仕方考えること

5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画（単元カード）」参照

6 指導（単元）の構想

子どもは、これまでに家庭科の題材で採り上げた五大栄養素や衣食住・消費生活といった生活の営み、家庭生活での時間の使い方について学習してきた。しかし、分かったことやできることが増えたという有用感にとどまり、具体的に食事や生活の仕方が将来にわたる健康維持や高齢化社会の問題点に影響を及ぼすということまでは考えていない。そこで、家庭科の学習に入る前に、福祉教育と体育科保健「生活習慣病」とを関連させて「健康寿命と高齢化社会」の学習を行う。

「生活習慣病」と「健康寿命と高齢化社会」の知識と**健康寿命に配慮し、持続可能な社会を構築することに着目し、生活の仕方考えること**という「見方・考え方」をもち、健康維持には、どういった食事や生活がよいのか、そしてそのことは、高齢化社会を生きていく上で大切なことだと理解している子どもに次のように働き掛ける。

働き掛け1

自分たちの食事と健康に配慮した食事との違いを問う。

自分たちの食事の事実に出合わせ、健康に配慮することを自分事としてとらえさせるこ

とで「見方・考え方」を明確にさせるための働き掛けである。

「生活習慣病」と「健康寿命と高齢化社会」の学習において、どういった食事が健康を維持するのによいか理解している子どもに、自分たちの食事を栄養バランスを測るSATシステム（以下SATシステムとする）を提示し、測定させる。そして、自分たちの食事の問題点を見いだす。これが、**健康寿命に配慮し、持続可能な社会を構築することに着目し、生活の仕方を考える**という「見方・考え方」を働かせ、自分事として問題点をとらえている姿である。そのような子どもに、食事を改善する場を設定する。子どもは、「見方・考え方」を働かせ、家庭科と福祉教育と体育科保健の資質・能力を発揮し（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、協働性）、健康に配慮した食事の具体を考える。理想の食事と改善した食事を提示し、共通点を問う。すると子どもは、健康に配慮した食事の要件を理解する。

働き掛け2

健康と高齢化社会の問題点とがつながる資料を提示し、自分たちにできそうな改善策の具体を問う。

課題解決のために見通しをもたせ、具体的な改善策を考えさせるための働き掛けである。子どもに、食事だけが改善されればよいか問う。すると子どもは、福祉教育と体育科保健での学習を想起し、「見方・考え方」を働かせ、食事だけでは健康寿命に配慮した生活とは言えないことに気付く。そして、主体的な追究課題を設定する。課題を設定した子どもに、学習したことのキーワードを提示し、どのようなことを考えなければいけないのかを全体で共有する場を設定する。すると子どもは、課題解決に必要なことを確認し、改善策の見通しをもつ。そして、対象を自分たちの班の家族とし、具体的な改善策を考える。様々な改善策を考えた子どもにタブレット端末でプレゼンできるようにまとめるように指示を出す。なお改善方法の話し合いに不足を感じた場合には、教科書を見たり、タブレット端末で調べたりしてもよいことも指示する。子どもは、自分たちの考えた改善策をプレゼンできるようにまとめる（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、協働性）。

働き掛け3

改善策を互いに紹介する場を設定し、改善策の評価を問う。

自分たちの変容に気付かせ、実践への意欲を高めさせるための働き掛けである。改善策を互いに紹介し、評価し合う場を設定する。改善策をどう評価するのか問う。すると子どもは、働き掛け2で提示したキーワードにあてはまっているか、本当に自分たちにできることなのかなど、評価の観点を挙げる。その観点をあらかじめ用意しておいた評価表の項目の空欄に記述させる。子どもは、評価の観点を基に互いの改善策の紹介を聴き評価する。このとき改善点があったらアドバイスするように指示する。改善策を評価されたものを見ることで、子どもは実践前後の自分たちの変容を実感する。その際、教師は改善策が妥当であったことを賞賛し、価値付ける。子どもは改善策に自信をもつ。

働き掛け4

学習したことを基に自分の祖父母や家族に健康寿命に配慮した生活を提案するという課題を設定する。

家庭での実践につなげ、発揮した資質・能力の自覚を促し、学習の有用感を高めさせるための働き掛けである。

学習したことを基に、自分の祖父母や家族に合わせて考えた解決策をタブレット端末を使って、写真や文字でまとめる課題を設定する。（②思考力・判断力・表現力、ツール活用能力）。まとめたことを交流する場を設定する。それは、様々な方法を知り、これからの家庭生活での工夫につなげるためである。そして、学習で分かったことや思ったことを問う。子どもは、学習内容を想起し（①知識・技能）、ワークシートにまとめていく。子どもは、学習のまとめをすることを通して、資質・能力を発揮し、学習課題を解決できたことを自覚する。そして、持続可能な社会を構築する一員として、これからも健康に配慮して家族と生活をしようとする（③態度）。

この一連の学習の過程を通じた姿が目指す姿の**生活の仕方と健康を維持することとをつなげて、改善策を考え、実践しようとする子ども**である。

7 指導計画 全7時間

別紙「指導計画（単元カード）」参照

8 本時の構想<第2日目> 5/7時間(45分授業) 【指導の構想：働き掛け1】

(1) 本時のねらい (本時 5/7時間目)

健康のための食事を構想したり、話合ったりして、その具体を考え、改善することができる。

(2) 展 開 ※1日目の続きから※

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
	<p>〔食事バランスを測るSATシステム〕</p>  <p>【学習問題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>健康に過ごすためには、どういう食事がいいのだろうか。</p> </div>
<p>1 評価の☆の数が少ない原因は、何かを探る。 →見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩分を摂り過ぎなのは、みそ汁と生姜焼きが原因かも。どちらかを変える必要がありそうだ。 ・野菜が不足しているね。「おひたし」とかを足してみよう。 	<p>○指示「SATシステムの判定結果の画面を確認しましょう」</p> <p>※ 各項目について解説する。 例：「食物繊維のところ赤いバーになっています。これは野菜が不足しているということですね」</p> <p>○指示「確認したことを基に、赤いバーになる原因の食事がなんなのかペアで話し合ってみてください」</p> <p>※ タブレット端末で撮った写真に○などの印を入れて原因となる食事がどれなのか視覚的に分かるようにするよう指示する。</p>
<p>2 評価の高い食事の相違点から健康な食事とはどのような食事なのか理解する。 →見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素がバランスよく入っている食事がよい。 ・ご飯と汁物、主菜、副菜が揃っているといいみたいだ。 ・野菜が多い。 ・果物が入っているね。 	<p>○発問「評価☆4つの食事の人がいましたね。そして、これが評価☆5つの食事があります。この2つの食事の共通点は何ですか。違いは何ですか」</p> <p>※ 子どもの評価☆4つの食事と理想の日本型食事を提示する。</p>
<p>3 食品サンプルの写真で、健康を考えた食分を考える。 →思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯とみそ汁と主菜Aと副菜Aと、これで 	<p>○指示「これらのことを基に、どのような食事がいいのか、考えましょう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け1-②】</p>

<p>いこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素は、全て入っているよ。 ・でも野菜の量が足りないよ。もっと食べた方がいいんじゃないの。 ・じゃあ、副菜を増やそうか。 ・主菜Aと主菜Bで迷った。食べたいのはどっちだろう。 <p style="text-align: right;">☆家庭科・体育科保健①② ☆協働性, ツール活用能力</p>	<p>※ 食品サンプルの写真を使って食事を決める場を設定する。決めた食事をタブレット端末で、写真を撮るように指示を出す。</p>
<p>4 検証・評価から、さらに食事を改善する。 →思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・☆5つだと思ったのに、SATシステムで測ると塩分摂り過ぎだよ。食事の組み合わせ変えないと。 ・SATシステムで測ると野菜は多いけどタンパク質が少なくないみたいだよ。 ・主菜Aを主菜Bに変えてみよう。 <p style="text-align: right;">☆家庭科・体育科保健①② ☆協働性, ツール活用能力</p>	<p>○指示「班で考えた食事をSATシステムで測定しましょう」</p> <p>○発問「改善すべきところがありましたか」 【働き掛け1-②】</p> <p>※ 改善した食事とSATシステムの結果をタブレット端末で記録させておく。</p>
<p>5 改善した食事を紹介し合い、どのような食事がよいか共有する。 →課題解決と学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8班の食事は、和食だね。 ・5班の食事は、洋食だね。 ・どの食事でも野菜が多いね。 ・魚を使った料理が多いね。 ・塩分控えめや野菜を多く摂取する食事かどうかという食事なのかが分かったね。 ・タンパク質も大事だよ。 ・五大栄養素が全部は入っているだけではだめなんだね。 ・主食、汁物、主菜、副菜、果物、乳製品の組み合わせがいいだね。 	<p>○指示「班で考えた食事を紹介してください」</p> <p>※ どこを工夫したか紹介することを指示する。</p> <p>○発問「健康で過ごすためには、どのような食事がよいのですか」</p> <p>※ 要件を板書する。</p> <p>○補助発問「毎回、毎食は無理だよ。好きな物も食べたいし、どうしますか」</p>
<p>6 学習から、分かったことと自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康のためによい食事は、ご飯が主食の和食（日本型食事）だということ分かりました。3食のうち、1食でも意識できるといいです。 	<p>○指示「ワークシートに学習で分かったことと自分の考えを書きましょう」</p>

(3) 評価

健康のための食事を構想し、どういった食事がよいのか班で話し合い、改善することができたか。(話し合いでの発言)